

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社プリマ		
事業所名	グループホームプリマホーム		
所在地	岡山県岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	令和6年6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	令和 6年 12月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、入所者お一人おひとりが自分らしく安心して穏やかな暮らしを過ごして頂くために、個人の尊厳を大切に寄り添う介護に努めています。また、ご家族の思いにも寄り添い、必要な時には話し合いや専門職と話す機会を作り入所者の健康の確保やご家族の安心につながるよう努めています。毎日を楽しむことができるよう、職員は、認知症について研修を行い入所者・職員が共に生きている実感をかんじられるよう工夫しています。旬の野菜や季節のお花を育てており、お花を愛で、畑の収穫の喜びや旬の味覚や香りを感じていただいております。ご縁を頂いた入所者、職員が共に生きる意欲のしぼまないホームづくりを目指し、第二の家として穏やかな生活を安心して送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに関わる一人ひとりが主役であるということ大切にしており、入居者や家族、職員が安心して穏やかに過ごすことができる支援や環境作りに努めています。思いや意向を叶えることに尽力し、最期までその人らしく後悔の無い暮らしを支援できるよう心掛けています。訪問看護や協力医療機関、薬剤師との連携も強く状況に応じた医療を受けられる環境が入居者や家族にとっても安心して暮らせる理由の一つになっている様子が窺えます。中庭が広く季節の花や野菜を育て四季を感じることができ、又、日常の中で気軽に気分転換が図れる場ともなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な研修を行い、当ホームの理念への思いや希望を知る事で全職員が同じ思いでサービス提供をできるようにしています。	一人ひとりが主役であることを大切にしています。職員は入居者にとって第二の家となるように日頃から安心して過ごせるような理念に基づいた支援を心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つながりが途切れないように地域の行事等参加できるよう努めています。そして、近所の散歩やお祭り等の参加を通して、あいさつを交わし関心を持っていただけるように努めています。	地域のお祭りに参加したり、毎年学童の子どもに依頼する七夕の飾りが入居者の楽しみになっています。地域との繋がりとホームを知ってもらい関わりを検討しながら交流を図っています。	これからも地域との繋がりを留意しホーム側から地域へのアクションを増やすことで、地域との交流や繋がりが深くなることに期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった時には、随時対応しています。地域の会議に参加し、認知症の人の理解や認知症の方の介護支援の特徴などを伝え、事業所に対しての理解が深まる取り組みを行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のつながりがもてるよう意見交換を行っています。ご家族様や地域包括支援センター、民生委員、薬剤師、訪問看護師、愛育委員の方々に参加していただき状況報告を行っています。	会議の場で認知症や虐待についての話をすることで理解を深められるようにしています。ホームが取り組んでいる事例や地域の人から困っている人の情報など、様々な意見、情報交換の場となっている様子が窺えます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情等の質問は、その都度市町村担当者に電話対応などで行い、アドバイスをいただいています。	何か相談や困りごとなど何かあれば担当者に電話をするようにしています。設備のことなども密に連携を取れるように日頃から協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的研修と随時研修と委員会を開き、身体拘束をしないケアについて考え取り組んでいます。また、身体拘束ゼロに取り組んでいます。	不適切なケアやグレーゾーンケアに関して研修で職員がより良いケアを意識できるようにしています。職員は入居者の行動制限をすることがないように家族の理解や協力も得ながら日々、本人にあった支援を実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修、随時研修を行い、日々のケアについて話し合っています。また、職員同士意識付けができる様、ユニット間をオープンにし、注意し合うことで虐待防止に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修を行い制度や法律を知ることで、必要な方への制度活用が出来るように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすく丁寧な説明を心掛けています。また、同意書が必要な場合はその都度書面を作成し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時には積極的に声を掛け、意見や要望など反映させています。	家族には写真付きのお便りを送ったり、何かあれば電話して様子を伝えるようにするなど密に連絡をとり疎遠にならないように工夫しています。入居者や家族と話しやすい関係性を築き意見や要望を反映している様子が窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的又は随時に職員との話し合いの場を設け、提案や意見を反映できるようにしています。	毎日代表者がホームに来るので職員は意見を直接言える環境があります。代表者をはじめ管理者は職員からでた意見や提案をすぐに反映していることで、働きやすい環境に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見はできるだけ対応し、職員が向上心を持てるような環境づくりや条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や外部研修やレベルアップのための研修など積極的に行えるよう支援しています。Zoom等の研修も受けられる様工夫しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話等で情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。また、業務上の相談やBCPについてなど意見交換をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人面接を行い、困り事や不安等を傾聴し、信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談以外でも電話等でコミュニケーションをとりながら、不安や要望に耳を傾け、安心していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームでのサービスが、ご本人とご家族の求めるものに合っているかどうか、他のサービスを含めた支援も考え対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がひとりで出来る事は見守り、「役にたっている」実感を得られるよう支援しています。また、出来ない事は、「一緒に行く」ことを大切にしています。暮らしを共にしている者同士の関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで困っていることやご家族の要望を相談し、一緒に解決に向けて取り組むことで共に支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力も得ながら、自宅へ帰宅したり友人との電話や面会を行い、関係が途切れない様支援しています。	家族の協力を得て美容室やお墓参りに行く入居者もいます。自宅付近をドライブしたり、友人との電話を取り次ぐなどの支援で馴染みの関係や場が途切れない支援が見受けられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などを工夫し、会話ができるようにしています。少人数で作業やレクリエーションを行う事で利用者同士の関わり合いを増やしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で現況を尋ねたり、話をする事で退所後の経過をアフターフォローを行い途切れない支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず入所前にご本人と面談し、生活の場を確認させていただき、入所後のサービスに不安が増えない様努めています。	日頃のコミュニケーションや行動を観察し、本人と家族からの情報も収集することで一人ひとりを知り、言動の意図を汲み取れるように努めています。職員は入居者の不安を軽減できるように本人本意に検討した支援を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用していたサービス機関や病院等との情報交換を行い、暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察と職員間での情報共有を行う事により介護サービスの統一性を図る様にしています。また、ご本人のできる事、できない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時にご記入いただいた「くらしの情報」をもとにした入所前と変わらない生活を目標にしています。また、認知症状の特徴を研修し、その方に適した支援や関わりが出来る様に努めています。	定期的な見直し以外にも、本人の状況に変化があった際にはその都度プランを見直しています。介護計画が実践できているか毎日チェックし振り返ることで、本人にあった介護計画の作成に繋がっています。本人や家族、医師の意見も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の観察や記録をもとに職員間で情報交換を行い、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、訪問歯科など必要に応じて受ける事のできるサービスを利用したり、相談指導を受け対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容を取り入れたり、買い物は近所のスーパーを利用し一緒に買い物に行っています。また、ご本人の行ってきた趣味や仕事で携わった事などを行う事で生活を楽しめる様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にはご本人やご家族の希望に添うように支援しています。外出が困難な方には、往診を受けられるように支援しています。	希望のかかりつけ医と連携し協力関係を築けるように努めています。24時間体制の訪問看護や地域の医師とも協力し何かあれば適切な医療が受けられる体制が築けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡シートを活用したり、週2回の訪問日や月1回のミーティングで直接相談をしています。また、気になることがあれば、随時電話にて報告相談し、適切な指示を受け支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師やソーシャルワーカーと情報交換をしたり、病院のカンファレンスに訪問看護師と参加させて頂き早期退院ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の説明に限らず、その時その時にご家族、主治医、施設と話し合い、意思確認を行いながら出来る限りの支援に取り組んでいます。また、職員は、定期的・随時にアドバンスケアプランニング等の研修を通してチームケアと環境づくりに取り組んでいます。	医師と家族の話し合いで看取りが決まった場合には、本人をはじめ家族、職員全員が後悔のない支援となるようにしています。訪問看護とも連携し、本人らしく過ごせるような環境や支援の方針を共有しチームケアに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な初期対応が出来るようにマニュアルを作成し、定期的に検討会や研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した火災・水害時の避難訓練や停電等を想定した業務継続訓練を行っています。訓練後、職員からの意見をもとに備蓄や経路の見直しを行っています。運営推進会議では最重要事項として地域の方々の協力体制を築いています。	定期的に避難訓練を実施している中で、実際の災害時にライフラインが止まることを想定し、水道と電気を使わない時間を過ごす事もあります。実際に体験してみると災害時に対応できるようにしています。	今後も地域の人を交えた訓練の実現で、今よりも地域との協力体制を強めることに期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めています。ご本人が安心する言葉を選び、声の大きさにも注意を払っています。	本人のくらしの情報や家族との会話から生活歴を知り、それぞれのし状況に合わせた対応を行なっている様子が窺えます。ユニット間のドアを開放していることで入居者への声掛け等を意識できる環境を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選ぶ事のできるような声掛けを心掛けています。今したいことはできるだけ対応できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンを把握し、ご本人のペースに合わせた生活ができるよう支援しています。起床や食事時間などはできるだけご本人の希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族に話しを聞きながらその人らしいスタイルで毎日を過ごせる様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力に合わせて調理方法や配膳方法を選び、出来るだけ職員と一緒にに行えるように支援しています。また、月に数回は好きなメニューと一緒に決めています。	毎週水曜日には手作りの日を設け、イベント時以外でも入居者の意見を反映したメニューを提供しています。楽しく食事ができる雰囲気作りの一つとして入居者の席配置にも配慮しています。本人の能力を活かし盛り付けや味付け等を一緒にしてもらう入居者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談しながら食事量の調整をしたり、必要な方は、栄養補助食品も摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ハミガキの声掛けや口腔ケアを行い、清潔保持できるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりひ合わせた尿パッド等を使用し、快適に生活ができるよう支援しています。排泄パターンを把握し自立に向けた支援につなげています。	一人ひとりのリズムや排泄パターンを知るために排泄表も活用しながら自立支援に繋がっています。本人にあった支援に努めていることで紙パンツから布パンツへ移行できた入居者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を調整したり、かかりつけ医や訪問看護師にも相談することで便秘の予防ができるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いすることなく、ご本人の希望や体調に合わせた入浴を行っています。一人ひとりに合わせた入浴方法に取り組んでいます。	本人の様子に応じて時間を変えたりすることで、無理強いすることがないように配慮しています。音楽をかけたりしながら入居者が雰囲気良く入浴できるように工夫している様子が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な時に休めるよう支援しています。照明や室温など調整し安心して休めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がご利用者一人ひとりの薬の把握に努めています。薬の変更等があれば症状の変化を観察し報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣や趣味などはできるだけ続けられるように支援しています。新聞、テレビ、調理、ゲーム等一人ひとりに合わせた楽しみ方で気分転換ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や近所を散歩したり、デッキでお茶をしたり、室内だけの生活にならないよう支援しています。時には、近隣や季節の花を見るために車で出かけられるよう支援しています。	敷地内の広い中庭には自由に出ることができ気軽に気分転換できる環境があり、四季を感じたり五感を刺激することもできます。ドライブやイルミネーションを見に行くなどの外出支援も行なっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所持し管理することはございませんが、買い物の希望があった時は購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族からの要望があった時は、随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が迷わず安全に動けるような配置にしています。壁や廊下には、季節のものや自らが作成したものを展示し楽しく過ごせるよう工夫しています。	職員は穏やかな雰囲気があり、入居者にとって居心地の良い空間となっている様子が見受けられます。音に敏感な入居者に合わせて心地よい音楽を流したり、寝る前には照明を徐々に暗くするなどの混乱や不快感を招かない配慮をしている様子も窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せず、好きな時に好きな所へ行けるように支援しています。また、ソファなどでゆったり過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものや自宅に飾ってあったものを使用していただく事で安心できる工夫をしています。	入居時に本人が安心して過ごせるように、毎日目にしていたものを持ち込んでもらうようにしています。職員は衣替えと一緒に居心地の良い居室作りに努め、趣味のことをしながら居室で過ごす入居者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活パターンや動線を把握して、危険なものは取り除くことで危機管理を行い安全な環境を整え自立した生活ができるように支援しています。		